

---

**【未成人、現ワル現ワル】《松屋少年編》**

M E B I N A

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

【未成人、現ワル現ワル】《松屋少年編》

### 【Nコード】

N6934B

### 【作者名】

MEBINA

### 【あらすじ】

クールな小学生を演じている松屋省吾であったが実は彼は……人のボケに『ツツコミたい症候群』だった。

【未成人、現ワル現ワル】《松屋少年編》

【その1】小学生なのにハードボイルド系？現ワル現ワル（前書き）

どうか、失笑しないで下さい……（切実）

【その1】小学生なのにハードボイルド系？現ワル現ワル

オレの名前は松屋昇悟まつやしょうご小学四年生。

将来の夢は某テレビ番組のテレホンショ キングに出ること。それは何故かというと……タ リさんが『お友達を紹介 』のセリフを言った後お客さんにあの

「え〜〜〜!？」  
を言われたという不純な動機で。

そんな可愛らしい(?) オレも普段はいたってクールかドライな人間だ。子供の時から

(つて今もだろツ!)  
親にも先生にも知らないおじちゃんにも『静かにしなさい』何て一回も言われたことがない。それが今発見したオレのプチ自慢かも。そんなオレのことを親戚やママが子供らしくないと言う。だってオレは空気が読めちゃいますから〜!

(つて何かこのフレーズ聞いたことあるな……?)  
ところで何でオレがこうなったのかを知りたくはないかい? いや、知りたくなくても勝手に教えてやる!

推定(?)として多分 パパのコレクションDVD(ハードボイルド系映画)をこっそり見過ぎたせいかもしれない……だが本当のオレはこんなのが好きなんじゃない!

オレは……オレは…… ツツコミを入れたんだあああああ  
〜〜〜っ!

オレのこの切実な思いをいつたい誰が分かってくれるのか?

(勝手にツツコめよ!なんて言うなよ〜?)

そもそも何でオレがこんなにも苛立っているのかはオレのクラスに行けばすぐに分かるはずだ。

その前にちょっと、オレの『イラストとした出来事』を勝手に紹介させてくれ！

ある日の国語の授業。その日は宿題で『自分の名前の由来は何だったか？』というのを親に聞いて来て発表しなくてはならないことになっていた。

オレは何げにちょっとワクワクしながら自分の順番が来るのを心待ちにしていた。

何でかって？ ふふふ、それはオレの名前にはちょくちょくカッコいい由来があるからさっ！

(……って 輪君かッ！ 孤独)

【未完成人、現ワル現ワル】《松屋少年編》

【その1】小学生なのにハードボイルド系？現ワル現ワル（後書き）

次回謎の男出現！？省吾の運命や如何に……。

【未成人、現ワル現ワル】《松屋少年編》

【その2】平成生まれの孤独（前書き）

すみません予告と内容が異なります。

【その2】平成生まれの孤独

まずは廊下側の一の列から順番に発表して行った。

男子1。

「僕の名前は僕のお母さんが昔スマプの追っかけをしていてキムクが好きだったので拓哉と付けたんだと言っていました」

「キムク〜！」

目立ちたがりやの男子の冷やかしにたわいもないクラスの笑い声が巻き起こった。

（ベタだなあ……ってゆーかキムクじゃなくて、原田拓哉だからハラタクだし）

女子1。

「私の名前は私のお母さんが、すはなよの名前が好きで子供が生まれたらその名前にしよう決めていたので“すみよ”と付けたそうです」

（それなら“はなよ”だろ！？）

それからとうとうオレの番がやって来た。

（おお〜ドキドキする〜う！）

前の席の奴が発表を終え席に座るとさっそくオレはその時を迎えた。

「んっ……んー！ ええ」

声が裏返らないようまずは咳払いで喉の調子を整えいざッ！ 発

表

「僕の名前は」

「はい、立って発表して下さい」

「！？」

先生にそう注意され、慌ててオレはイスから立ち上がった。

（うおおお〜何やってんだオレ？ かつこ悪イ〜！？）

「僕の名前の由来は……」

その時やたらと教室の中が静かに感じオレは嫌々緊張を感じ額から変な汗(?)が出て来た。

(やばい オレは追い詰められた芸人か……!?)

「僕の名前は……」

緊張のあまり思わず同じ文を二回読んでしまった。

しかしクラスの奴等は頑なに口を閉じたまま誰一人笑わなかった。

「……ミュージシャンのは しょーのようなカッコいいミュージシャンになれるようにと願いを込めて父が “省吾” と名付けたそうです」

静かな教室……。

(……あれッ? 何だこの静けさは まさかまさか……?)

「は しょーって誰?」

「知ってる?」

「知らな〜い」

(ちくしょ〜この平成生まれめ〜! あんな良い歌、歌ってるのに〜イ! お前ら昭和の名曲をもっと聞け〜ッ!)

無念さを感じつつもオレは冷静に着席した。

【未完成人、現ワル現ワル】《松屋少年編》

【その2】平成生まれの孤独（後書き）

次回、兄弟ネタ（多分）

【未成人、現ワル現ワル】《松屋少年編》

【その3】兄弟よ ビデオの秘密 (前書き)

予告通り兄弟ネタになりました。

【その3】兄弟よ ビデオの秘密

オレには随分歳の離れた兄ちゃんがいる。なんとオレより14歳も年上だ。まるでサ エさんとカ オ。その兄ちゃんは婿に行ったので今うちにはいない。

つまりマス男さん（婿養子）ってことだ。

『そんなに歳が上のお兄ちゃんがいていいなあ』

と友達にはよく羨ましがられるが、こんだけ歳の差があると下手をすれば “親子” に見られてしまう。

それはママが若くして兄ちゃんを産んだからじゃなく、逆にオレを産んだのが遅すぎたからだ。

だって、45歳の高齢出産ですから！

若き日の過ちならぬ、 老いし日の過失。

ああ、それは罪なのか？オレはその運命の十字架を背負って生きて行かねばならないのか！？

アーメン……（意味不明）

それはさて置き、オレと兄ちゃんにまつわる兄弟メモリアルを勝手に語らせてもらう。

例え聞かなくてもいい、黙ってただ 読んでくれ……

まだ兄ちゃんがうちにいた頃、DVDを見ようとオレが棚の中を探しているとその奥にビデオを発見した。

（うわあ〜ビデオだ！ すげえ〜昭和の香りがする〜う）

そのビデオのラベルにはタイトルらしきものが書いてあった。

（一雄専用 “THEダンディズム” ？兄ちゃんのビデオか）

それにしても何だか怪しいタイトルだった。オレはそのビデオが妙〜に気になり、もの凄〜く見たい衝動に駆られた。

(何が入ってるんだろぅ~~~~!?)

そしてそのビデオをケースから取り出すと本体にもラベルが貼られ更に別のタイトルが…… (“オレビデオ” ? すぐ~~~~ツメまで折ってある!)

ダビング防止対策までしてあるし余程大事なビデオなんだろぅ。そう考えるとオレは余計にそのビデオが見たくなつたが見付かるとママに怒られるので、素早くパパの書斎に潜り込んで試聴することにした。

(何だよこれ……釣りはっか?)

再生してみると延々と毎週土曜にやっている釣り番組が録画してあった。

(兄ちゃんのダンディズムって……)

オレは飽きて来たので3倍速で早送りしてみた。

すると……

(うわッ!? ちょちょちょちょと……何これ!? (赤面) 見てはいけない物を見てしまった。

テープの残りが半分ぐらいまで来ると突然、釣り番組から画面が切り替わり何故か “アダルト” な画面に……

(兄ちゃんのダンディズムって……)

これはきつと兄ちゃんの置き土産だ(?) オレが大人になるまで封印しておこう。

オレは心にそう誓った。

すると誰かが帰って来る音がして、慌ててオレはビデオの “取り出しボタン” を押した。

(やっべ!?)

すると閉まった棚のフタにぶつかつたビデオはデッキの中へと戻つて行つた。玄関のドアが開けられカサカサと物音がする。

慌ててオレはフタを開けもう一度 “取り出しボタン” を押してようやくビデオを取り出し急いで書斎から出た。

「兄ちゃん!? 何で居んの?」

帰って来たのは兄ちゃんだった。

「何でつて今、会社から帰って来たから」

「えっ、もうそんな時間!？」

時計を見ると既に6時を回っていた。

「あつ本当だ……?」

とオレは引きつったように苦笑いした。

(お願いだから気付かないで!)と願いながら ところが……

「あっ!?! 何持ってたんだお前!?!」

あっさり気付かれてしまった。

兄ちゃんは慌ててビデオをオレから奪い取った。

「何で、お前、こんな……!?! はあゝ」

兄ちゃんは気の抜けた声を出し、すっかり落胆していた。そして

「見たのか?」

静かにそう言った。

「見てないよ!オレ、そんな、 “釣り” なんに興味ないし!」

オレは必死にしらをきろうとしたが

「見たんだな」

何故かすぐにばれてしまった。

「兄ちゃんオレ、本当にあの、 “釣りのとこ” しか見てないか

ら!」

「釣り以外何か映ってたのか?」

冷たく兄ちゃんはそう言った。

「ううん…… “全部” 釣りだった」

オレはたじろいだ。

「全部見たのか?」

「と、途中まで……」

(誘導尋問する取調室かッ!)

オレは言えば言うほど深みにはまって行った。

「省吾。男なら言い訳するな。洗練された男は言い訳などしない」

「……」

そこまで言った時の兄ちゃんめっちゃめっちゃカッコ良かったが…

…

「それが男のダンディズムだ」

その台詞を言った途端兄ちゃんが全くダンディな男に見えなかったのは何故だろう……

もしかするとオレは釣り番組でカモフラージュさせてまでアダルトビデオをダビングしていた兄ちゃんあの細工に、男の潔さを感じなくなってしまったからかもしれない……（切実）

【その3】兄弟よ ビデオの秘密 (後書き)

次回【その4】??……………もしかしたら奴が現われるかもしれない……!?次話もよろしくお願いします

【その4】惜別の日よ……（前書き）

『人は出会い　そして別れ　その繰り返しなのかもしれない…  
…』松屋省吾のラスト・オブ・シユール・アワ　くくく！！！！でござ  
います。

【その4】惜別の日よ……

ある日、オレがいつも通り学校に登校すると突然劇的ニュースが舞い込んで来た。

「今月を持って私はこの学校を辞任することになりました」

「ええ〜〜〜っ！？ 何でえええ〜〜〜！？」

蒲谷先生かはやのその報告を聞き生徒達が驚き教室が騒がしくなった。

蒲谷先生とはこのクラスの担任の先生だ。

「妻の実家で農業を手伝うことになりましたので……」

そう言った蒲谷先生は顔が赤かった。

「先生奥さんいたの！？」

「いつの間に結婚してたの！？」

「何で教えてくれなかったの〜〜〜！？」

先生は一気にみんなの質問攻めにあっていた。

それもそのはず、蒲谷先生は独身貴族が売り（？）の地味な男性教師として今まで通して来たのだ。それで先生は

『結婚したら君達に教えるから』

なんて言っていて純粋な生徒達は皆先生のその言葉を信じていたというのに……あれはたんなる大人のリップサービスにすぎなかったのだろうか（？）

ああ、蒲谷かはや則夫のりおお菓子おかしにのりが付いたようなあなたのその名前はまやかしかったのか……（？）

すると先生は照れくさそうにしながら質問に回答した。

「……実は、先月才、んっんっ！ 先生が……プロポーズしました……」

「……」

食い入るようにみんながその話に聞き入り一瞬だけ静寂が流れたが……

「おお〜〜〜！」

「やったじゃん先生!？」

「おめでとぅ〜!」

また一気に盛り上がり生徒達から先生へと温かいエールが送られた。

それはこの荒<sup>すさ</sup>んでしまっているこの世の中において(?) 実に美しい光景だった。

蒲谷先生、オレはあなたを決して忘れはしない!(はず)

独身貴族卒業おめでとぅ と教卓<sup>そく</sup>に刻んでおこつ…… (多分)

それから数日後、新たな担任はやって来た。

「今日からこの四年二組を担当して頂く先生を紹介します」

三組のおかつぱ頭のおばちゃん先生が教室にやって来てそう言った。

戸が開き

静寂が流れ

運命の瞬間……

そして姿を現したのは紛れも無い素朴で健康的な男性教師だった。

「皆さんはじめまして。私の名前は……」

そう言いその男性教師は黒板に勢いよく大きな字を書いた。

(照弥基?何か族の当て字みたいだなあ。何て読むんだろ?)  
変わった名前だなあとオレが思っているとその男性教師が言った。

「ええ〜私の名前は……」

オレの中に緊張が走る。

(まさかまさか?)

「西野照弥基にしらのてるちかです」

(ええ~~~~っやっぱり~~~~!?)

オレは心の中でそうツツコミを入れたがクラスの連中は誰もツツコミを入れず、普通に聞き流した。

(スルーかよ……っ!?)

オレはそんなクラスの連中にある意味驚愕した。

「実家はとんかつ屋なんですが親が照り焼きが好きなので……」

西野先生はそこで話を中断した。

「……」

生徒達は皆行儀よく黙っていた。すると

「誰だトンカツ屋の息子なのに痩せてるなんて言う奴は!?!」

「……」

西野先生のその声に皆の表情が固まった。

(誰も言っていないし……てゆーか今のはノリツツコミか?)

それが西野先生との出会いだった。

それから月日は流れ、オレは中学生になった。

そして、その知らせはあまりに突然やってきた。

「省吾、久米くんから電話よ」

夕飯の時電話が鳴り、すぐに出たママが言った。

「どうした?」

久米は小四の時同じクラスだった男子で、中学に入ってからは別のクラスになった。

「四年の時担任だった西野先生……昨日交通事故で亡くなったんだって……」

沈んだ声で久米は言った。

「え！？……嘘」

身近な人の死を知らされるのはこれが初めてではなかったが、オレはショックで頭の中が真っ白になった……

ああ、とらのこ西野照弥基先生

オレはあなたのことを忘れない

ただ一つ後悔しているのは

あの頃オレが先生のネタ（？）にツッコまなかったこと……

あの頃はガキだったんだ

もしも、時間を戻せるのなら

オレはきつと……

きつと先生にツッコミを入れてあげるのに

『西野照弥基』

【未成人、現ワル現ワル】《松屋少年編》

「やりのてりちきかよっ!？」

まずはそう言っただけだった……

【その4】惜別の日よ……（後書き）

今まで読んでくださった方々、どうもありがとうございました。評価、感想のほうもよろしく願います。

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6934b/>

---

【未成人、現ワル現ワル】《松屋少年編》

2008年8月29日19時06分発行